

# 県政この一年

今年、北陸新幹線や中部縦貫自動車道の整備が進んだほか、二次交通の利便性が向上するなど、県民の皆さんが活動する基盤がさらに整い、福井県の発展に向けて、次のステップへと大きく踏み出した年でした。  
この一年の県政の動きを、「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョン「元気な社会」「元気な産業」「元気な県土」「元気な県政」に沿って、ご紹介します。



## 元気な県政

### 国体・大会の成功と「スポーツ福井」の実現

**準備が進む福井しあわせ元気国体・大会**  
第73回国民体育大会（福井しあわせ元気国体）と第18回全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会）の円滑な運営のため、様々な準備を進めています。  
会場整備については、建設や改修が必要な県内43施設のうち、今年度末までに約7割の29施設が完成する予定です。  
また、県外の有力選手に県内企業への就職を支援する「スジョブふくい」や、県外にいる福井県出身選手に福井県代表として出場してもらう「ふるさと選手」制度により、選手の獲得を目指しています。  
さらに、受付や会場美化などを行う運営ボランティアと、手話や要約筆記などにより聴覚障害のある方に情報保障を行う情報支援ボランティアの募集を開始しました。



今年完成した陸上競技場（福井市）

### 幸福実感、誇りを生み出す「ふるさと政策」

**幸福度日本一** あらかじめ、幸せだったらいいな。  
民間企業や大学が発表した「幸福度ランキング」において、福井県が3度目の幸福度1位に輝きました。これを機に、コピーとロゴを制作。また、幸せを思い起こす行事や風習などを募集し、歳時記としてまとめる事業を開始しました。

幸福度  
いちばん  
福井県

### 文化・芸術を身近に

#### 文化財豊かな福井県

橋本左内や松平春嶽が訪れた丹波洞草庵や、江戸時代の旅籠屋の造形を今なお保つ旧増尾家住宅主屋が国の登録有形文化財に登録されました。また、旧大和田銀行本店本館が昭和の銀行建築としては初めて国の重要文化財に指定されるなど、福井の歴史が全国的に評価されています。

## 元気な社会

### 人口減少に歯止めをかける徹底戦略

**学生が集まるまちへ**  
県内すべての大学・短期大学・高等専門学校の学生が集い、学べる拠点として、大学連携センター「フスクエア」がアオッサ7階にオープンしました。恐竜学や日本海地域の自然など、福井に関する特色ある講義を開講。約1200人の学生が、大学の枠を超えて共に学んでいます。また、サークル活動や県内企業の経営者との交流会を開き、学生の地元定着を後押ししています。

### 福井から人材育成

**ふるさと教育の充実**  
福井ゆかりの先人の生き方や考え方を学び、将来に役立てるために、教材「ふるさと福井の先人100人」を作成し、中・高生に配付。由利公正や南部陽一郎博士のエピソードが掲載されています。また、小・中学生が古典に触れる機会を増やすため、百人一首や橋本左内の啓発録など、福井ゆかりの作品を収録した「古典音読・暗唱ノート」を活用した授業を行っています。



古典音読・暗唱ノートを使った授業の様子

### 教育・文化施設をレベルアップ

福井県出身の漢字・文字研究者、白川静博士没後10年を機に、県立図書館にある白川文字学の室（へや）をリニューアル。博士が過ごした書齋を忠実に復元するなど、内容を充実しました。また、エンゼルランドふくいは、展示を従来の観覧型から体験型へと大幅リニューアル。シンボル展示として、国内最大級の大型モニター「ジオ・エンゼル」も設置しました。



エンゼルランドふくいの新しいシンボル展示「ジオ・エンゼル」

### 全国に先駆けた教育システムの整備

県内全ての公立小中高校・特別支援学校と教育研究所などをつなぐ、「遠隔授業・研修システム」の本格運用を開始しました。県内外、海外の学校間での合同学習や、双方向型の通信研修などを通して、子どもの学習の充実や、教員の授業力向上を図ります。

### 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献

**医療のさらなる充実を目指して**  
循環器内科・心臓血管外科・脳神経外科の3診療科が連携し、全身の血管疾患を一元的に治療する「脳心臓血管センター」を県立病院に開設しました。また、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、「地域医療構想」を策定。医療機関の役割分担・連携や地域包括ケアシステムの構築、医療人材の確保・養成など、医療提供体制の整備を進めます。

### 日本一の安全・安心

#### 原子力防災訓練を実施

高浜・大飯両地域の原子力発電所から30km圏内の5市町の住民 約5,500人の参加を得て、車やバスによる避難や屋内退避などを行う原子力防災訓練を実施しました。住民や関係機関の協力により、県内に加えて、初の県外（兵庫県宝塚市など）への避難や、県内外でのスクリーニング・除染訓練など、広域的かつ多数の参加者による実践的な避難訓練が実施できました。今後とも、大規模な広域訓練や個別訓練などを組み合わせ、毎年継続して実施することにより、防災力のさらなる向上に努めます。

### 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

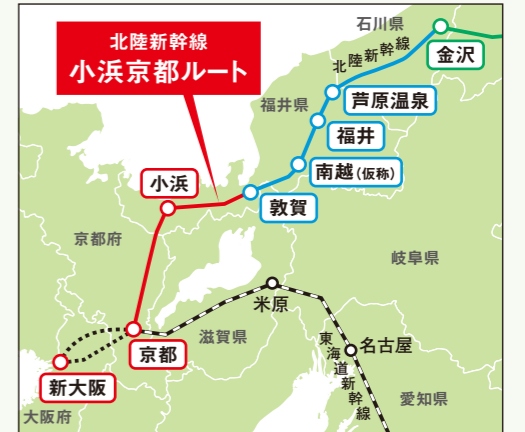
#### おいしい食べ盛り運動の推進

福井県が平成18年から全国に先駆けて始め、他の自治体に広まりつつある「おいしいふくい食べ盛り運動」。適量注文や残さず食べることを呼び掛け、食品ロス削減を進めています。さらに、この運動を県外にも広めるため、県が主導して「全国おいしい食べ盛り運動ネットワーク協議会」を設立。他の自治体との協力により、さらなる運動の拡大を目指します。

## 進む高速交通網の整備

### 北陸新幹線 敦賀以西ルート決定!

40年以上にわたり県を挙げて運動を展開してきた結果、北陸新幹線の敦賀・大阪間ルートが、本県の主張どおり「小浜京都ルート」に決定されました。今後は平成42年度末の北海道新幹線札幌開業より早く大阪までの全線開業を実現させるため、整備財源の確保と早期の着工、完成、開業を政府・与党に求めています。



### 北陸新幹線の早期開業に向けて

平成34年度末までの敦賀開業の確実な実現に向け用地取得を進めています。取得率は来年度以降に取得が確実な用地を含めると約7割。工事については、県内の総延長の約6割の区間で着手しています。福井市北部では九頭竜川橋りょうや森田地区の高架橋の橋脚が姿を現しており、新北陸トンネルについては、総延長の4分の1に当たる約5キロの掘削が完了。年度内には県内の全区間で工事契約ができるよう努めます。

### 中部縦貫自動車道の整備促進

来年の永平寺大野道路全線開通に向けて、永平寺～上志比間の整備を進めています。県内の主要都市が1本の高速道路で結ばれることになり、企業進出による雇用の拡大や、観光入込客数のさらなる増加が期待できます。大野油坂道路においては工事や用地取得が進んでおり、北陸新幹線敦賀開業に合わせた平成34年度末までの全線開通を目指しています。沿線地域では、勝山インターチェンジから恐竜博物館などへの新アクセス道「県道勝山インター線」が開通。永平寺大野道路全線開通に向け、観光キャンペーンが計画されるなど、盛り上がりを見えています。

### 高速交通開通アクション・プログラムの策定

北陸新幹線敦賀開業や中部縦貫自動車道の全線開通までに、行政と民間が協力してどのような準備を行うかについて、「福井県高速交通開通アクション・プログラム」として取りまとめました。具体的には、JRや地域鉄道、バスなどの地域交通の充実や新幹線駅周辺都市の開発、歴史や文化など県内各地のすぐれたふるさと資産の活用にも重点投資を行います。県民の総力を結集し、住むひとにも来るひとにも楽しくて便利な、魅力ある福井県の実現を目指します。

## 元気な県土

### 美しい県土、楽しく便利なまちの形成

#### 交通が便利に! 賑わう県都

JR福井駅西口に、バスターミナルや福井鉄道福井駅、タクシー乗り場を集約した交通広場が供用開始。西口再開発ビル「ハビリン」のオープンとあわせて、駅周辺が多くの人で賑わっています。  
また、福井鉄道とえちぜん鉄道という異なる事業者による鉄道と軌道の相互乗り入れが全国で初めて実現。福井市北部と丹南地区とが乗り換えなしで往来できるようになりました。これにより所要時間の短縮や運行本数の増便が図られ、相互乗り入れ区間の利用者数が昨年の約3倍となっています。



賑わうJR福井駅西口広場

## 元気な産業

### 革新と創造で伸びゆく福井の企業ものづくりを支える

鯖江市で伝統的工芸品の全国大会が開催され、全国の伝統工芸品や職人が一堂に会しました。大会に合わせて、サンドーム福井の管理会棟を、ものづくり産業の振興や人材育成の機能を持つ「福井ものづくりキャンパス」へとリニューアル。伝統工芸品の器で県産の食材を使ったパンやスイーツが楽しめるカフェも併設し、福井のものづくりを発信する拠点となりました。  
また、福井県産めがね110周年を機に「サバエ メガネメッセ」も開催されました。県産新作眼鏡や製造工程を展示したほか、ウエアラブル、医療製品などの新技術もPRしました。

### 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

#### ダントツブランド恐竜

「勝山恐竜化石群及び産地」が、恐竜化石としては全国で初めて、国の天然記念物に指定されることとなりました。今回の指定は、産出された恐竜化石が学術上、極めて貴重であることが評価されたことによるものです。また、恐竜博物館および県立大学恐竜学研究所の研究成果が認められ、古生物学界では最も権威のある日本古生物学会の総会が県立大学で開催されました。



恐竜化石の発掘現場

#### 観光誘客を強化

県内各市町の魅力を高めるため、高浜町の「ハーバルピレッジ」、小浜市の「まちの駅」の整備を支援しました。また、池田町の「ツリーピクニックアドベンチャーいけだ」や永平寺町の「道の駅 禅の里」が新たにオープン。越前町の「越前がにミュージアム」がリニューアルするなど、県内各地で観光拠点の整備が進んでいます。

### 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

#### 福井米を全国へ

日本を代表してきたコシヒカリを超える新しいお米の品種を決定し、名称募集を開始しました。平成30年度の本格販売に向けて、食の専門家や料理人、卸業者によるブランド化戦略会議を開催。日本一のブランド米として、全国の消費者に高く評価されるための戦略を策定していきます。



新品種「越前(えつなん)291号」

#### 農林水産業を応援

農業では、九頭竜川下流域のパイプラインが全面供用を開始。九頭竜川の両岸に広がる福井・坂井平野の農地に、24時間夏場でも安定してきれいで冷たい水を届けることができるようになりました。  
林業では、大野市の木質バイオマス発電施設が稼働。これまで利用できず、山に残さざるを得なかった間伐材を余すことなく利用できる環境が整いました。  
水産業では、漁業所得の向上を目的とした敦賀市の水産加工施設が稼働を始めた。県内漁港で水揚げされた魚を加工して、学校給食や県内外の量販店、飲食店に提供しています。また、農林水産業の担い手を育成するため、林業カレッジを開設。昨年までに開設した園芸カレッジと水産カレッジではそれぞれ第一期生が修了し、農家や海女として県内で活躍しています。

#### 全国に誇る食ブランド

昨年度から売り出した極上品質「越前がに 極(きわみ)」のブランド効果をさらに高めるため、漁の様子をおさめた越前がにのPR動画を制作。越前がにに取り付けたQRコードから、誰でも手軽に見られるようになりました。また、吉川ナス(鯖江市)や谷田部ねぎ(小浜市)、山内かぶら(若狭町)が地名の付いた産品をブランドとして保護する国の「地理的表示(GI)保護制度」に登録され、県内のGI登録数は、全国でも最多の3品目となりました。

#### 福井の食文化を海外へ

アジア市場への食の輸出を拡大するため、香港とシンガポールで「福井の食文化提案会」を開催しました。福井の食材を使った料理にあわせて越前漆器などの伝統的工芸品をアピール。販路拡大のため、現地での商談会やセールスも実施しました。